「かながわユースフォーラム」に参加して ―社会教育課程　地域デザイン―

外国語学部 中国語学科 3年　久保 文乃

かながわユースフォーラムとは、２０２０年度に『ユース（若者）が集まって、ボランティアのこと、地域のことを新たに知る。いろんな人の経験や考えを聴きながら、自分ごととして考える。同じ気持ちを持っている人、自分と違う考えの人と交流する。』そんな新しい人・新しいことに出会える機会を設ける場です。

今年度は、３年目の活動ということでしたが、これまでは横浜キャンパスでのみの活動だったため、みなとみらいキャンパスでの活動は初めての試みでした。

この写真は、3月にみなとみらい地域を街歩きした時のものです。(2022年 3月10日）その後、3月の間はみなとみらい地域の課題を調べ、どういったアプローチをすればその課題が解決されるのか、どういった企画を行えば地域が活性化されるかといった話し合いを定期的に行いました。

昨年、12月末にコアメンバーが決定しました。今年、１月からの２ヶ月間は、横浜キャンパスのメンバーと一緒にこの活動の大枠のテーマを決めていきました。その大枠の骨子は、１月に話し合いをしていく中で、新型コロナウイルスの影響で人との繋がりが希薄になってしまっているということ、またかながわユースフォーラムという団体が多くの人との繋がりを作る場所に、多くの繋がりがこれからも出来るようにという意味を込めて、「輪を広げる」になりました。ここからどういった活動を行っていくのか、分科会に分かれて、それぞれの詳細決めが始まりました。

分科会は、授業や人数の関係から、みなとみらいキャンパスでは一つの分科会を立ち上げました。みなとみらいキャンパスの分科会としての活動は３月から始まりました。みなとみらいという地域は、どういった地域なのかを知るために、街歩きを行いました。

私たちは、子どもとの交流をしたいと考えていたことから、その点に絞って、どのような課題があるかを考えました。しかし、大学生に解決できる課題は無いという結論に至りました。そこで横浜市役所が子どものために実行している企画を自身で行い、子どもと関わり、企画運営をすることで新たな課題等が見えるかどうか、次年度に繋ぐために何が出来るかという方向性に向かっていくことになりました。

新年度を迎え、みなとみらいキャンパスは3年生が五人という少人数の中、先生や地域コーディネーター、先輩のお力添えを頂き、子どもアドベンチャーカレッジの企画運営を行っていくことに決まりました。

子どもアドベンチャーカレッジというのは、市内の小学生に向けて、「主体的・対話的で深い学びのきっかけづくり」「社会参加のきっかけづくり」の場と機会を提供するため、民間企業や団体、大学、公的機関などの協力を得て、夏休み体験学習プログラムを実施するというものです。具体的に言うと、子どもが地域にあるお仕事を体験してみようというものになります。

私たちは大学生コーディネーター同士の交流や、大学生コーディネーターと企業の交流が円滑に進むように、アイスブレイクやチームビルディングを計画して、企画運営をしました。そのため、４月が準備期間、５月が横浜市役所との打ち合わせ、６月に

企画の運営の実施をしました。この6月の企画は、大学生コーディネーター同士の交流やそのコーディネーターと企業との交流の場で、どのような企画をしたら仲がより深まるかということを考え、アイスブレイクを企画し、実行しました。

　そして7月にかながわユースフォーラムの全体会で活動報告をしました。

　私は、今回、みなとみらいキャンパスの代表を務めさせて頂きました。新型コロナウイルスの影響で、家にいる生活が長く、何か新しいことに挑戦してみたいと思ったこと、また現在の自分では、どういったことが出来るのかという自分の中の挑戦をしてみたいという2点から立候補をし、かながわユースフォーラムに携わりました。

この写真は6月21日に行われた、子どもアドベンチャーカレッジの企画運営をした時の写真です。

　代表になる上で、みなとみらいキャンパスは1年目の活動ということもあり、同じ熱意で、参加メンバーが全員、楽しく活動に取り組んでいけるようにするということを念頭においていました。

　今回の活動を通して様々な貴重な経験をさせて頂きました。

　その中で、みなとみらいという地域における課題の発掘と子どもアドベンチャーカレッジの企画運営の2つの観点で、私の感想を綴りたいと思います。

　1つ目の観点、みなとみらい地域の課題の発掘は、3月の間の大きな課題でした。これまでの2年間のかながわユースフォーラムの活動は、分科会ごとに一つの課題を取り扱うという形で、様々な分科会が成立していました。しかし、みなとみらいキャンパスの所属メンバーは横浜キャンパスメンバーに比べて少ないため、複数の課題に取り組むことは難しい状況でした。その中で、どういった課題を見つけ出して、取り組みたいのかという部分を絞り込むところから始まりました。まず、みなとみらいという地域にどういった課題があるのかを知った上で、次に参加メンバーがそれぞれどういった課題に取り組んでみたいのかという調査を経て話し合いを行うことの難しさがありました。何故難しかったかと言うと、関わるメンバーの興味を抱いている分野が違っていたからです。また最終的には取り組むことを絞っていかなければならず、それぞれの観点一つひとつを組み合わせることはとても大変でした。また、全員が納得して進めていくために、周囲をよく見て動いていくことがこれまでにない経験でした。ここで経験出来て良かったと強く思っています。

　2つ目の観点、子どもアドベンチャーカレッジの企画運営は、4月から6月までの間におこなってきました。第1に難しいと感じたこととして、この企画以外にそれぞれが授業や課題、アルバイト、課外活動等が多くあるということです。一つのことだけに集中することが出来ないものの、しっかりとしたクウォリティーの物を作り上げるために、平等に仕事を振るのではなく、それぞれの抱えているものに配慮した上で、割り振って行ったりすることが難しいと感じました。また、企画運営において、当日、予想外の事が起こることはつきものです。シンキングタイムの際に、静まり返ってしまった空間に音楽を持参すれば良かったという反省点も見つかりました。体験しなければ見つからなかった反省点と出会えたことは、私の中でとても大きな糧になりました。

　このような反省点は、体験しなければ知らなかったことです。そして、このようなことがあっても、楽しく活動が出来、その上で成功を収めるということが出来たのはそれぞれがしっかりと話し合って役割を全うしたこと、多くの人の支えがあったということだと私は考えます。

　今回の経験を通して出来た繋がりが、私は得られたものの中で一番の大きなものだと感じています。この繋がりと経験を生かし、今後に生かしていくと同時に、次の世代に繋いでいくための活動をこれからはしていきたいです。